

“イレイザー・ミスト発生装置による”インフルエンザ、食中毒、耐性菌発生の防止

平成 24 年 10 月 31 日

毎年、インフルエンザのシーズンが来ると、感染者が激増し、高齢者では、多数の死亡者が出たことが報告されることになる。全国の職場では多数の欠勤者が出るために、社会のマンパワーおよび経済的な損失は、相当な額に達する。しかし、その対策として、マスメディアを通じ(それも専門家を通じて)、毎年毎年、繰り返し言われていることは、

1、うがい 2、手洗い 3、マスクの着用、の3点である。

しかし、これらの実行だけで、インフルエンザの猛威を防止することはできない。

またインフルエンザの流行による学級閉鎖や学校閉鎖等を防ぐことはできない。毎年これらの対策で、確かにインフルエンザ発症の機会は、それだけ少なくなっていることは考えられる。しかし、根本的に有効な対策には程遠い。

そこで、完全に人畜無害で且つ、人間社会で問題になるすべてのウィルスを秒殺でき、しかもほとんどの有害細菌や真菌にも即効性で(*データを参照)ほとんど無味無臭の製造特許製品で、改良次亜塩素酸水(「イレイザー・ミスト」消臭・除菌製剤)を利用する「より確かな新しい対策」を述べてみたい。

- ① インフルエンザに対する根本的な対策は、理想的には、インフルエンザの各型に有効なワクチンの開発が挙げられる。しかし、長年にわたる研究者たちの努力にもかかわらず、何れの型のインフルエンザにも有効なワクチンの製造は、現在のところ理論的にも経済的にもほとんど不可能であり、開発のめどは立っていない。そのために、インフルエンザウィルスが、その特徴である抗原型を次々と変えながら、毎年流行することとなっている。

- ② 最初にインフルエンザの伝染は、どのようにして起こるのかをよく検証してみたい。インフルエンザウィルスは感染者の体外へ出てからどれほど感染力を保っているかという、超長く見ても48時間(ウィルスによっては体外に出てから2年は感染力を保つことがあるという極めてタフなパルボウィルスというウィルスもある)であり、インフルエンザウィルスは体外に出てからの感染力は比較的弱いことがよくわかる。
- ③ 次に、ウィルス、細菌、真菌にしても、感染するためには、かなり量のウィルス、細菌、真菌が必要なのである。世間一般の人々は一個のウィルス、細菌、真菌でも感染してしまうという認識を持っているが、それは誤りである。一定の免疫力を持っている健常者であれば、かなり量のウィルス、細菌、真菌にさらされない限り、実際の感染は成立しないのである。
- ④ さて、このような事実を背景とし、インフルエンザウィルスに感染しやすい場所を考えると、“人が大勢集まる場所なら何処でも”ということになる。具体的には、
1. 幼児・児童の集まる場所
 2. 学校(保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、各種学校、専門学校)
 3. 特に待合患者が多い総合病院、医院(歯科医院などの多くは予約制のため、感染の機会はそれだけ低いといえる)、特に大病院、大学病院
 4. 会社、高齢者施設、映画館、劇場
 5. 各種ジム、フィットネスクラブ、カルチャー教室など

6. 飲食店、パーティなどの会場、その他いろいろな集会場

7. 駅構内、電車やバスの車内、デパートやホテルなど数えればきりが無い

⑤ 次は感染者の免疫状態について考えてみよう。

1. 児童が極めて感染しやすいのは、それだけの理由がある。母親にインフルエンザに対する十分な免疫があり、乳幼児が初乳(母乳)を十分に飲むことができれば、母親からの免疫をもらうことができる。しかし、通常その免疫力は短期間(数か月)で失われてしまう。
2. 適切なワクチンの接種や今までインフルエンザに感染する機会がなかった者は、常に免疫がないために、最も感染しやすい状態にあるといえる。
3. インフルエンザのワクチン接種や感染を受けなかった者でも、いわゆる成人になる過程で、普通は顕性あるいは、非顕性に、インフルエンザ感染を経験する可能性が高くなるので、それなりに多種類のインフルエンザに免疫力を持つ人の数は増えることになる。
4. もうひとつの集団として高齢者が挙げられる。高齢者は一般的に免疫力が低下すると考えられている。中でも、俗にいうメタボから、高血圧、糖尿病、その他の慢性疾患、栄養バランスの悪い人や悪いストレスにさらされている人などは免疫力が低下する。さらに常用する薬剤などで免疫力が低下するものもある。

⑥ 次は感染者から体外に出たウィルスが、どのようにして伝染を起こすのかについて述べておきたいと思う。

感染の機会に最もさらされているのは、性別を問わず、企業で働く成人と、年齢を問わない通学生徒である。普通、通勤時間や通学時間は朝の何時間かに集中する。電車やバスの中にインフルエンザ感染者がいれば、くしゃみや咳をするたびに大量のウィルスをまき散らすことになる。(その意味ではマスクは大切ではあるが完全ではない。)第二に、大量にまき散らされたウィルスは、他人の手、口、鼻、喉などに直接まき散らされるわけではない。

それらのほとんどは、まず本人、他人の着ている衣服に直接、あるいは間接的に付着することになる。不特定多数の人々の衣服がウィルスにより汚染される。さらに汚染された衣服に接触する他の衣類や手指ということになる。したがって、推奨されている手洗い、うがいの励行は役に立つ。

しかし、装着しているマスクと衣服が実は最も大きな問題であることがよく分かる。通勤者や通学者は、また交通機関を使って帰宅する。営業マン・ウーマンは、毎日次々と交通機関を変えながら行動する。つまりインフルエンザの流行期間中、朝晩の通勤時にマスクや衣服に大量のウィルスをつけてしまい、立ち寄り先や家に持ち帰ることになり、それが最大の感染源となることが分かる。

ここまでを読めば誰でも、うがい、手洗い、マスクの着用だけでは、インフルエンザの感染防止は不可能であることがよくわかるはずである。つまり、使用したマスク、衣服の除菌・消毒が絶対に必要である。不幸にして発症してしまった場合は、寝具、寝室、その他室内すべてを含めて、発症期間中、インフルエンザウィルスの不活性化を継続的に行うことが必須であり、「イレイザー・ミスト発生装置」と「イレイザー・スプレー」の組み合わせて使用することが最適である。

⑦ イレイザー・ミストの安全性

この「マスクや衣服に付着したウィルスによる感染」ということが、実はインフルエンザ流行の最も大きな要因であることが分かる。従って、理論的には伝染源になるヒトから出た活性のウィルスを直ちにすべて不活化してしまえば良いことになる。しかし、残念なことに、すべての人々への実行は不可能である。

今日までに存在する強力な“法定の消毒剤”というものは、すべて人畜には有害であり、直接それで手を洗ったり、うがいをしたりすれば、粘膜はもちろん、皮膚もすべて痛めてしまうばかりか、衣服をも傷めてしまうのである。

イレイザー・ミストは40ppmという低い濃度で速効性を持っているので、空中に直接噴霧することができる大きな特徴となっている。つまり衣服、靴下、鞆などの上から全身に噴霧することができるのである。

⑧ その他の消臭・除菌液

うがいや手洗い、マスクの着用などと同様に、消臭・除菌液は、程度に差があるが、何らかの効力を持っている。しかし、あらゆるウィルスなどを秒単位で消毒(不活化)できるほど確実で強力なものは他には何もない。ところがイレイザー・ミストは、あらゆるウィルス-インフルエンザ、パルボ、コロナ、ノロ、アフリカで猖獗を極めているHIVなどを秒殺で、O-157をはじめ病原性大腸菌やその他の食中毒を起こす知られているすべての有害な細菌や真菌は分単位で除菌してくれるのである。

1. すべての皮膚は、人も動物たちも共に弱酸性である。消毒・漂白効果が非常に高い次亜塩素酸(強アルカリ)とは異なって、この液体は弱酸性化(特許)されている。したがって、人畜の皮膚にも優しく、うがい等で鼻腔内、口腔内や目に入ったとしても、また子どもたちや動物たちが誤って飲んだとしても、問題となるような刺激性や毒性がない。従って、金魚にも影響がない、という優れたものである。
2. 特にイレイザー・ミスト発生装置は、この液体を微小分子状態にして、室内の湿度を保つことができる。インフルエンザウィルスに最も感染が起り易くなるのは、環境温度の低下と、それに伴う湿度の低下(乾燥)である。従って、イレイザー・ミスト液を超音波で噴霧することにより、室内湿度を適切に保つことができる。この液は分子状態になることで、強力な殺菌・消臭・除菌効果が得られるのである。またミストを持続的に発生させる装置により、常時、室内および衣服等の除菌・消臭と室内(教室、鶏舎、畜舎、動物病院、動物たちの入院室、人の病院、人の入院室、高齢者施設等)の加湿を継続的に行うことができる。
3. 従ってイレイザー・ミストは他の除菌・消臭剤の欠点をすべて取り除いた理想的な除菌・消臭剤である。しかもエアコンシステムそのものに対しても化学的、物理的にも無害で、ダクト類に対しても同様の除菌・消臭効果が期待できる。また新築家屋や新築建造物などの内装からくるシックハウス・シンドロームの要因であるアルデヒドやアンモニアなどの化学物質をモノクロラミン化することにより、無毒化、消臭するので効果は抜群である。タバコ臭などの悪臭、さらに、みなさんがよくご存じの強力な悪臭で知られる猫の尿、さらにスカンクに代表される犬や

猫などの肉食獣に特徴的な、臭腺分泌物、皮膚病、外耳炎、人間の加齢臭などの悪臭の除去(ほとんど瞬時)にも極めて効果的である。

4. 現在、病院やデパート、ホテルなどに置いてある除菌(消毒)液は消毒用アルコールであるため、純水二酸化塩素やイレイザー・ミストのように、人間や動物に直接スプレーしたり、衣服や室内全体に継続的にスプレーしたりということはできないし、また前述のような消臭力はない。また、排水の際には、下水の有機物などに対してイレイザー・ミストがすでに作用を終えた状態で流れるため、バイオシステムによる浄化槽に対する悪影響は無い。また室内の水槽の金魚、魚類や爬虫類にも問題はない。
5. このイレイザー・ミスト発生装置とスプレー液を自宅と通勤先に常備し、通勤時(通勤先)、および帰宅時、装着していたマスクや衣服の上から全身にスプレーするだけでウィルスを秒殺することができる。つまり、これらの実行だけでも、感染の機会を激減させることができることが分かる。もちろん、うがい、手洗い、マスク(直接の飛沫感染を防ぐことには大きな効果がある)の着用は、それなりに有効であるが、取り外したマスク、着用している衣服に直接、イレイザー・ミストのスプレーをすることでさらに強力な効果が期待できる。
6. 前述した感染機会が高い、不特定多数の人々が多く集まるところ、幼稚園や小学校、医院、病院、飲食店、さらに店の調理場(食中毒が発生すれば直ちに営業停止処分)や厨芥ゴミ置場など、「イレイザー・ミスト発生装置」と「イレイザー・ミストスプレー」を併用することで、常時、そのような除菌・消臭効果が継続的に得られるのである。

7. 病院や動物病院、クリニックや動物クリニック内で「イレイザー・ミスト発生装置」と「イレイザー・ミストスプレー」を併用することで、ウィルス、細菌、真菌などの除菌で、感染症、伝染病のリスクを大いに減少させることになる。またレストラン、魚屋、寿司屋などの生臭いニオイや厨芥置場やトイレ等のすべての嫌な臭いの消臭を確実に継続的にすることができる。
8. また人の医学、動物の医学領域では、抗生物質が汎用されている。対象となる菌は、何れも抗生物質に対する耐性を持つ菌へと変異する可能性が高い。このような耐性菌の発生は、微生物が本来持っている抗生物質に対抗する遺伝的・生化学的なメカニズムが働くことによるものである。しかし、イレイザー・ミスト液の作用は、細菌の場合は、細胞膜を物理的に壊し、ウィルスの場合は、核の周囲のたんぱく質を物理的に壊すことにより、不活化除菌するために、ウィルス、病原細菌、真菌に対する耐性菌の発生を防止することになるので、極めて重要である。
9. 従って、(人と動物の)クリニック、病院、福祉施設などで、インフルエンザ、ノロ、パルボ、コロナなどのすべての有害なウィルスの不活化、さらにO-157をはじめとするすべての食中毒の防止、さらに中毒菌、真菌の除菌、新築内装化学物質とすべての好ましくない悪臭に対する脱臭無害化、病院、動物病院の診療で世界的に問題となっている各種抗生物質に対する耐性菌の発生防止に、適切な「イレイザー・ミスト発生装置の利用」と「イレイザー・ミストスプレーの応用」が必須であると考えられる。